

山岳ぐんま

駒ヶ岳登山



群馬県山岳連盟副会長

吉田直人

今年は午年、私の干支も午で今年還暦を迎える。何か記念になるようなことはないか考えて、ウマ絡みで駒ヶ岳と名の付く山を全て登ることにした。

調べると数え方にもよるが全部で二十山あり、半分ほどは登っているが、ルートや季節を変え改めて登ることで、また新たな感動が得られるのではないかと考えた。

山の位置からして二三日の休暇も必要な駒ヶ岳が多く、現役サラリーマンの身で一年では厳しそうですね、次の年末までで完結できればと思う。今回は六月に行った北海道駒ヶ岳を書いてみたい。

北海道駒ヶ岳(一一三二m)、蝦夷駒ヶ岳、渡島駒ヶ岳とも言う。

この山を最初に見たのは高校三年の夏休みである。牛乳配達して貯めたお金で、友人二人とテントを背負って北海道旅行をした時のことで、ずいぶん昔の話である。

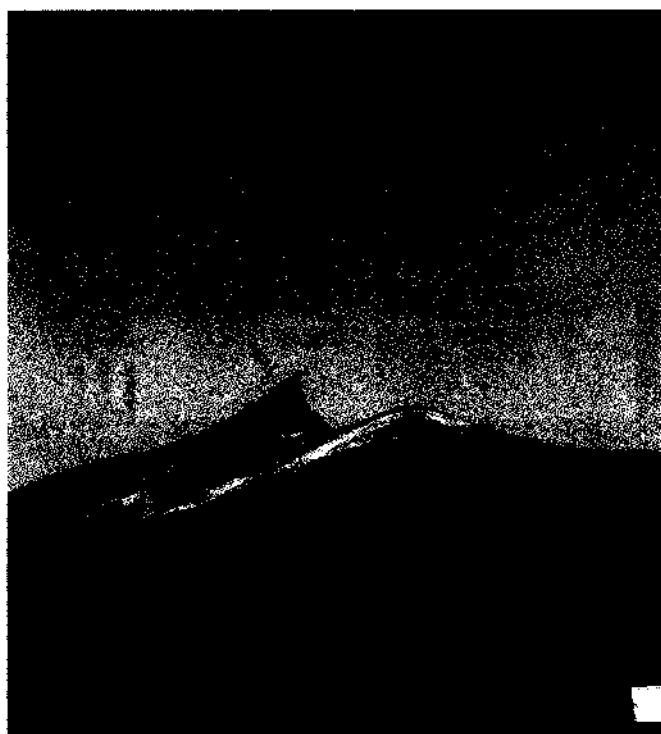
青森駅から青函連絡船に乗り継ぎ、本州を離れたときはずいぶん

遠くにきてしまったなと感じた。少なくともはいたが、当時、北海道ではSLが現役で走り、白円札も流通していた時代である。

最初のキャンプ地が大沼公園で、そこから見た特徴的な山容で湖に映える駒ヶ岳が、十七才の少年にはあまりにも強いインパクトで迫り、その時の光景は今でも鮮明に脳裏に焼きついている。

湖畔の土産物屋で駒ヶ岳が描かれていた真つ赤なペナントを買い、自分の部屋の一番目立つ所に貼っておいた。

時は経ったが四十二年前と何も変わらない大きな駒ヶ岳を見たとき、当時のことが次々に思い出され、郷愁にかられしばらく眺めていた。私はこの山の美しい稜線が好きだ。



登山口より見た駒ヶ岳

話しを現実に戻そう。六月二日(月)六時に目がさめる。昨夜函館の街で、美味しい地酒と新鮮な海産物でイッパイやりすぎ、まだ少し体がだるい。ホテルの朝食バイキングで、イクラかけ放題のイクラ丼を食する。酒が残る体には重すぎる朝食だが、せっかくなので二杯食べた。

身支度を済ませチェックアウト後、相棒が運転するレンタカーで登山口へと急ぐ。天気は最高だ。昨日も、この時期北海道ではめずらしく二十度超えを、北見で記録したようだ。

途中のコンビニでビールとおにぎりを購入。新緑が続く道を気持ちよくドライブ気分で登山口の赤井川登山口十時着。ハルゼミの合唱の歓迎を受けながら、登山届けをここで提出する。

昨日山開きをしたばかりとか。一九九八年の噴火から二〇〇九年まで人山禁止されていた、二〇一〇年規制緩和され、登山できるようになったようだ、登山期間は十月末までの四ヶ月でそれ以外は禁止となる。

また入山できるのは九時からで、十五時までに登山口まで下山が原則。サイレンが鳴ったら即下山が

義務づけられている。またいつ噴火するかわからない、活火山特有のルールがあるようだ。

駒ヶ岳がすぐ近くに見えることは既に六合目。サランボ大の軽石が敷き詰められた様なガレ場で

歩きにくい。三十分ほど登り、一休み。暑いので少し早いビールを飲む。見上げれば、いつまでも

見ていたいような真っ青な広い空、ゆっくり流れる白雲、初夏の乾いた空気。振り返れば眼下に緑の海

原に、大沼がキラキラ光っている。

これぞ大いなる北の大地。松山千春の「天空と大地の中で」を思わず口ずさみなくなる。

それから十五分ほどで九合目の



九合目馬の背から見た山頂剣ヶ峰

馬の背（九〇〇m）といわれる登山許可されている最高地点に到着。

これ以上行っちゃダメのロープが張られている。山頂の剣ヶ峰、砂

原岳が間近に見える広々とした場所である。

うつすらと噴火湾、羊蹄山らし

き山が見えた。十五分ほど休み、下山開始。斜度がある所では、ス

ピードが出てしまう。軽石に足が滑り何度が転びそうになりながら三十分ほどで駐車場着。

往復二時間もあれば充分北海道

の山が楽しめる簡単な山だが昨日千歳でフルマラソンを走ってきたオッサンにはちょうどいい山だった。

日中韓登山技術研修交流会

群馬岳連遭対委員会 毛 呂 憲 治

(前橋山岳会)

平成二六年九月五日〜十日まで、日中韓登山技術研修交流会が群馬県の谷川岳で開催されました。昨年は中国の高所での開催だったため、参加者は少ないように感じましたが、今年は幅広い年齢層の参

加があり、谷川岳は大賑わいでした。

今年は、中国から中国地質大学の学生と引率の教員で六名の参加があり、学生はクライミングこそしないものの、五〜六千メートルのトレッキングを

していると話していました。韓国からは各県代表一三

名参加があり、皆レスキューをボラ

ンティアで行っている人とのことで

した。昨年の中国での研修会に参加

していた人が二名いて、再会を喜び

ました。日本からは日山協会会長・副

会長も参加され、遭対常任を中心に、

指導委員会、海外委員会、労山、群

馬岳連救助隊等多数の参加がありました。

私たち、群馬山岳連盟救助隊の役割は、六日に一ノ倉沢で予定されていた、ワイヤーレスキューのデモンストレーションでした。

テールリッジからひょんぐりの滝まで、一気に三百メートル張り込むという、ワイヤーでしか出来ない事を行いました。通訳もひょんぐりまで同行してくれたので、ワイヤーレスキューのシステムやワイヤーの強度、一ノ倉沢の岩壁についてなど、様々なことについて意見交換することが出来ました。

七日には、マムシ岩で技術交流会を行いました。救助隊は、索道のデモンストレーションを行いました。韓国隊からは得意のチロリアンブリッジのデモンストレーションが行われ、参加者から歓声が上がっていました。

八日は谷川岳交流登山で、天神尾根コースと巖剛新道コースに分



「遭難の現状」中国隊発表



300mワイヤー張り込み



負傷者ワイヤー搬送デモ

かれて行われました。私が参加した巖剛新道コースでは休憩中に行動食の交換をしました。私もここぞとばかりに「羊羹、羊羹」と皆に配ったのですが、韓国隊は変な顔をしていました。理由を尋ねると、「ヨウカン」は韓国語でお花摘みのことだとか。そんな笑い話をしながら、山頂まで行ってきました。下山は悪天候のため、全員天神尾根コースから下り、宝川温泉で登山の疲れを癒しました。この

別れパーティーはバーベキュースタイルで行われました。毎年なのですが、この日は十五夜。中国も韓国も特別な日とのことで、中国では月餅を食べる習慣があり、皆に振舞われ美味しく頂きました。韓国からは雪岳山（ソラク山）で取れた天然二十年物の朝鮮人参の酒が振舞われました。大変貴重な物だと言っていました。私には早かったようです。この人参は内緒の場所にストックしてありますので、もう二十年後、もう一度チャ

レンジしてみたいと思います。最後になりますが、個人的には昨年の宝剣山での事故の考察で、事故の原因として、日本と韓国の登山スタイルの違いがあり、それに起因する事故だったという報告が大変興味深かったです。また、通訳できる人が多かったこと、携帯電話の通訳アプリが使えた事により、多くの人と情報交換でき、とても楽しめました。皆さん、また会える日までお元気で！



一ノ倉沢にて

平成26年度

自然観察会

自然保護委員会 三 田 治 宣

開催日…平成二十六年七月二十日
(目)

毎年恒例の自然観察会は、今年

度は上信越高原国立公園四阿山
(あずまやさん、二三五四m、H

本百名山、群馬百

名山)でおこなわ

れました。

今年に入ってか

らは天候が不順な
日が多く、各委員

が下見に行くにも

雨に降られること
となりました。

しかし、当方晴

れ男なのでしょ

うか、下見の時も本

番の時も不思議と

雨に降られませ

でした。

本番当日は、集

合直前まで雨が



自生するコマクサ

降っていましたが、歩き始めると
時折り晴れ間もみえる様になりま
した。

三連休のなかびで参加者中し込
み不足が心配でしたが、最終人数

は一般参加二十人、

役員講師十五人、

総勢三十五人のま

ずまずの人数とな

りました。

コース別人数は

健脚コース二十九

人、観察コース五

人、駐車場待機役

員一人でした。

今回のコース設

定として、高低差

はないものの距離

があることから

「健脚コース」と

「観察コース」の

二班に分かれての

スタートとなりま

した。

健脚、観察コー

ス共、登りは天然

記念物である的岩

を観察し、見晴ら

しの良いガレ場で自生するコマク

サの観察・休憩をとりました。こ

こは山野草の宝庫と言っても過言

ではないほど草花がみられ、植物

を解説していただいた講師も解説

に忙しかったと思います。

少し登山道から外れたガレ場に

ひっそりと咲くコマクサは、今回



四阿山頂上にて

我々大勢の人間の前で悠々として
いたのが、とても印象的でした。

その後、健脚コースは四阿山の
頂上まで行きますが、観察コース
はここで折り返し、花童子コース
を先に進み、出発地である駐車場
まで戻ります。

四阿山頂上は眺めは期待できな
かったものの、人で賑わっていま
した。皆平から根子岳経由で来た
方が殆どなのでしょう。

下りの復路の景色は、雄大な浅
間山や嬭恋村のキャベツ畑を見下
ろしながらのわけでしたが、見通
しが悪くそれはかないませんでした
。それでも山肌の木々や草花は
きれいでした。花童子の周りはお
花畑で、様々な色の花が散りばめ
たように咲いていました。

そこから黙々と下山し、程なく
集合出発点の駐車場につき、無事
解散となりました。

毎回お世話になっている高崎山
岳会の皆さん、今回は沼田山岳会
の方々も声を掛け合って参加して
いただき、楽しく無事に自然観察
会を実施できましたことを大変う
れしく思います。

諸先輩方が築き上げてくれた日
頃の交流の賜物なのだな、とつく
づく思いました。

第69回国民体育大会 山岳競技会

群馬県成年男子監督 柘植 求

十月十七日、十九日、第六十九回国民体育大会山岳競技会が長崎県大村市において開催されました。

本県からも成年男子および今年も見事関東ブロック大会を勝ち抜いた成年女子の二種別で参加しました。昨年は男女とも入賞までであと一步の几位という順位だったので、今年はその雪辱に燃えての出場となりました。

競技初日は男女ともボルダリング競技の予選。上位八位までが決勝へ駒を進める事が出来ます。クライミング競技というのは本来個人競技なのですが、団体では団体戦となります。特にボルダリングにおいては同チームの二人が同時に同じ課題に挑戦しますので、どちらが先に登るかや先に登った選手が相方に上手くアドバースできるか等のチームとしての戦略がかなり重要になります。この辺りは見ていても面白いし、選手の評判も良いようです。まさに県対抗で行う国体にふさわしい競技形式だと思えます。

男子チームは、今年も日本代表としてワールドカップに出場するなど好調のエース千本木洋介、そして団体初出場ながら実力派の関隆致で挑みました。ボルダリングは二人の得意とする種目なので当然上位を狙っていきます。

しかし結果は合計4課題中それぞれが1課題のみ完登の二十二位というかなり不本意な成績で予選敗退しました。一課題目で千本木がまさかのミス、そのままりズムを崩しズルズルと落ちて行ったような状況でした。本人も「なぜかわからないが身体が全く動かなかった」と語っていました。百戦錬磨の彼をもつてしても勝負の世界の怖さ難しさがあったんだらうと思います。

続く女子チームはリード競技日本代表の大澤咲子、ボルダー競技日本代表の細野かおりという近年では最強と思われるメンバーで挑みました。

しかしこちらも残念ながら十一位で予選敗退。ボルダーの得意な

細野の動きが硬く、これもまた実力だけではない勝負の世界の難しさでしょう。

二日目は男女ともリード競技の予選になります。

まずは女子から、大澤は当然のように完登。リードの苦手な細野も健闘して見事五位で予選通過。明日の決勝で上位入賞も狙える位置につけました。

男子は両名ともこの種目は苦手としていますが、登り口は健闘し高度を稼いでいるように見えました。しかしルート下部で二名と

も場外反則を取られ結果的には四十六位に終わりました。この辺りは選手達がこの種目に慣れていないせいもありますし、監督の私の事前注意が足らなかったのも原因の一つだったかもしれません。いずれにしても大変悔しい結果となりましたが、この悔しさ、失敗をバネに今後の活躍につなげていければと思います。

三日目は女子リード決勝です。すでに入賞も決めているので選手も伸び伸びと登る事が出来たでしょう。そして両名とも素晴らしいクライミングを見せ九位入賞を果たしました。

群馬県の成年女子が山岳競技で入賞するのは平成十三年の第五十六回宮城国体以来となるそうです。女子は赤松久字監督の下、関東ブ

ロック大会前より毎週末の練習会を重ねてきた結果が花開いたとも言えそうです。

さて、今回の国体を振り返ってみて思うのはやはり他県の少年種別の強さです。成年種別でも少年からそのまま続いて選手になる県が増えており（本県の大澤選手もそうですが）、少年での強さがそのまま成年へとつながっています。もちろんユース層の強化といっても一朝一夕にはいかないですが、幸い本県でも少しずつ小学生世代でクライミングを楽しむ子供達が出てきています。そんな子供達が将来は国体選手、そして立派なクライマーとして育って欲しいと思いますし、私も微力ながらそのサポートが出来ればと思っています。

最後になりましたが、選手監督の皆さん、お忙しい中、今年もトレーナーとして帯同して頂いた群馬大学の坂本先生、大会役員の皆様、そしてご支援ご声援頂いた岳連の皆様、本当にお疲れ様でした。また来年は、和歌山県での国体です。今回以上の成績を残せるよう、何より悔いなくその実力を存分に発揮出来るよう頑張りますよう！皆様のご支援ご鞭撻もよろしくお願いいたします。



ボルダリング群馬カップ表彰式にて
左から、北村啓介選手、千本木洋介選手、関隆致選手



長崎国体リード表彰式にて
左から、大澤咲子選手、細野かおり選手

平成26年度 登山教室実施報告

群馬岳連登山指導委員会

対比地 界

今年度もたくさんの方の指導員の方にご協力を頂き、無事、登山教室を終了することができました。

広報活動としては、例年と同じように要項五〇〇枚を登山用具店、公民館等に置いてもらいました。群馬岳連関係各ホームページへの掲載や上毛、朝日、毎日の各新聞社の紙面掲載等、例年以上に広く宣伝することができました。しかし、参加者数は24人で、昨年度の40人と比較して大分減少しました。

回数	実施日	内 容	参加	講師
1	9/3(水)	開講式 座学①「読図 地形図について」	24	14
2	9/9(火)	座学②「シルバコンパスの使い方、GPSについて」 座学③「登山届け、登山記録」	23	12
3	9/13(日)	登山実技「榛名山」 A(掃部ヶ岳)、B(烏帽子岳)、C(大月山)	18	8
4	9/27(日)	登山実技「小野子山」 A(小野子山・十二ヶ岳)、B(小野子山)、C(小野子山)	18	6
5	10/1(水)	座学④「登山計画、登山計画書」 閉講式	20	15
皆勤(修了証)			9	
特別講習	2/28(土)	登山実技(スノーシュー) 「玉原湿原周辺」	申込 7	



生涯学習センターにて

今後の課題として、減少した原因を究明することも必要になってきますが、少ない人数になったことで、参加者一人一人に丁寧な指導することができたという利点も生まれました。また、昨年度のアンケートで要望の多かった登山計画についての講習を設け、好評を得ることができました。ちょうど御嶽山噴火の直後でもあり、真剣に聞き入る様子が見られました。また、座学の講師もたくさんの方の指導員の方に分担してもらい、講師陣の裾野を広げることができたのは大きな収穫でした。昨年度と同じように参加者にアンケートを実施しましたが、その結果を参考に、反省会を開き、来年度に向けてよりよい内容になるために検討を重ねていきたいと思っています。

アンケートの結果

①参加者の男女数、年齢構成、この登山教室の参加経歴。

男	6
女	13

～30	2
31～40	3
41～50	1
51～60	6
61～70	7
71～	0

初めて	16
あり	3

②登山を始めて何年ぐらいですか。また、1年に何回ぐらい登山に出かけますか。

0～2年	6
3～4年	3
5～6年	4
7～10年	5
11～15年	0
16～20年	0
30年	1
0～5回	7
6～10回	4
11～15回	1
16～20回	1
21～30回	2
50回～	2

③小屋泊の経験は

あり	26
なし	10

④テント泊の経験は

あり	8
なし	28

⑤参加した理由は
何ですか？

仲間に誘われて	5
仲間を見つけるため	2
登山の知識を増やしたかったから	18
登山の技術を得たかったから	14
情報交換のため	1
もっと理解を深めたかったから	8
その他	
仲間とのハイキングを充実させるため	1

⑥参加費の
五千元は

高い	4
適額	13
安い	2

⑦各回の講習はどうでしたか？

(5)座学「登山計画、登山計画書」		(3)実技「榛名山」		座学「GPSについて」		(1)座学「読図 地形図について」	
理解できた	14	理解できた	7	理解できた	4	理解できた	6
少し理解できた	2	少し理解できた	7	少し理解できた	4	少し理解できた	9
あまり理解できなかった	0	あまり理解できなかった	0	あまり理解できなかった	7	あまり理解できなかった	2
今後の登山に役立つ	6	今後の登山に役立つ	6	今後の登山に役立つ	2	今後の登山に役立つ	7
少し役立つ	2	少し役立つ	7	少し役立つ	5	少し役立つ	1
あまり役立たない	0	あまり役立たない	0	あまり役立たない	1	あまり役立たない	0
(4)実技「小野子山」		座学「登山届け、登山記録」		(2)座学「シルバコンパスの使い方」			
理解できた	6	理解できた	10	理解できた	4		
少し理解できた	7	少し理解できた	4	少し理解できた	9		
あまり理解できなかった	0	あまり理解できなかった	2	あまり理解できなかった	2		
今後の登山に役立つ	5	今後の登山に役立つ	6	今後の登山に役立つ	9		
少し役立つ	0	少し役立つ	1	少し役立つ	1		
あまり役立たない	0	あまり役立たない	0	あまり役立たない	0		



北毛青少年自然の家駐車場にて

(1)		
楽しかった	16	
少し楽しかった	2	
あまり楽しくなかった	0	

(2)		
今後の登山に役立つ	12	
少し役立つ	4	
あまり役立たない	0	

(3)		
期待通りだった	10	
少し期待はずれだった	2	
期待はずれだった	0	

てみていかげでしたか？
 ◎全体を通して、今回の登山教室に参加し

(1)座学			
読図		10	
山の天候と天気図		12	
山での危険の回避		14	
山での応急処置		8	
服装・装備		3	
歩行技術	12	食糧計画	2
行動計画	6	生活技術	4
その他	岩場・鎖場での下山		1
テント泊について			1

(2)実技			
無雪期のテント泊山行		3	
無雪期の小屋泊山行		7	
縦走路でのロープワーク		10	
岩登り	5	雪山登山	5
沢登り	4	その他	0

は？(複数回答可)
 ◎登山教室のテーマとして興味のあるもの

⑩講習について感想、ご意見、気がついた点などご記入ください

- 座学を受けてから実技を実施しているので、よく理解できた。
- 山の新しい楽しみ方が増えました(計画の楽しさ)。パソコンでいろいろな山の地形図を印刷して、自分なりに楽しんでいます。
- 「シルバコンパスの使い方」の座学を欠席してしまったため、実技登山で分からないことも多く、残念だった。来年もまた、参加したい。
- 最初に座学、次に実技の繰り返しが良いと感じます。
- 全くどれもこれも初体験でしたが、大変勉強になり、役立つ内容で充実していました。
- 初心者登山教室と思って参加しましたが、他の方のレベルが高いことに驚きました。多少無謀だったかと反省。他の方の足を引っ張ってしまったのではないかと心配です。しかし、私にとっては楽しい体験でした。丁寧に指導いただき、ありがとうございました。
- もう少し高い山に登っても良かったと、個人的には感じます。
- コンパスの使い方だけでなく他のこと、装備や歩き方も教えていただき、参加できてよかったと思います。
- シルバコンパスの使い方が非常に難しく、経験を重ねないと会得できないものだと思います。最終回の概念図の必要性を再認識できて、やってみようと思えた。
- 磁北線の説明を実技前、座学で行ってもらえれば、実技で分かりやすかったと思う。実技は少人数だったので、質問もしやすく、一人一人への説明もあり、良く分かった。実技前の座学で装備について(選び方など)実物を見せての説明があれば、よかったと思う。(初心者には説明(リスト)だけでは分かりにくかった。)
- 座学と現地学を一緒にすることで、コンパスの使い方、地図の見方、実際の山道の状況等の理解ができます。

⑪その他、感想、ご意見、改善したほうがよい点など自由にご記入ください。

- 小野子山は都合で参加できず、残念。読図は少し理解できて、全く新しい山行の楽しみが増えました。自宅にいて地形図を見て楽しむことができるようになりました。
- 質問⑧でチェックしたものを講習してもらいたい。
- 集合場所にたどり着くまでが不安でした。(時間に遅れて参加できないのでは、置いていかれるのではないかと不安でした)
- 興味のある事項にチェックをつけました。講義を期待しています。山の天候と天気図、山での危険回避、歩行技術…。(ここまで書いて、自主学習すべきと気が付きました)
- 山の遭難、事故の事例解説と対策などの講義があれば参加したいです。
- C班は違うプリントで磁北線の引き方も詳しく教えてもらっていた。できれば基本的なことなので、A、B班の方にも教えてもらいたかった。最後の講習で教えてもらえたので良かったです。
- 今回、この講習にあわせるように御嶽山の噴火があり、有意義な講習だったと思います。
- 磁北線の引き方を実際に体験したかった。実技の班の分け方は、もう少し、ある程度の経験をもとに振り分けた方が良いのでは？ C班も実際は小野子山頂上まで行き、他の班も十二ヶ岳まで登ったようですし。
- 登山歴はそこそこあるのですが、連れられ登山が多かったので、読図の基本を学ぶことができて良かったです。
- 申し込みの時点で経験の有無をしっかりと把握してほしい。全くの無経験者が経験ありと偽っていて困った。
- 大変参考になるお話をたくさんありがとうございました。今後の山行に役立てたいと思います。機会があればまた参加したいと思います。今回は実技登山に1回参加できなかったもので、全日程参加して、修了証を頂きたいです。

関東 オートキャンプ場 なら 桐の木平キャンプ場 溪流サイト 団体専用あり

桐の木平キャンプ場

〒378-0102

群馬県利根郡川場村川場湯原2681

tel 0278-52-2442

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223

伊勢崎市小泉町 252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2

TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026